

2023年度創立記念日記念式典について

2023年12月27日

公益財団法人鉄道総合技術研究所

公益財団法人鉄道総合技術研究所（以下、鉄道総研）は、2023年度創立記念日記念式典を下記の通り開催しましたので、お知らせいたします。

記

1. 開催日時：2023年12月11日(月) 10時00分から15時30分
2. 場所：鉄道総研 国立研究所 インタラクションスクエア
3. 列席者および受賞者：鉄道総研役員および職員（148名）
（その他、職員によるWeb視聴378名）
4. 式次第：
 - (1) 会長式辞
 - (2) 理事長式辞
 - (3) 表彰等
 - 研究開発成果賞・業務成果賞
 - 研究開発成果褒賞・業務成果褒賞
 - 研究開発奨励賞
 - 表彰受賞者代表答辞
 - 永年勤続15年表彰（16名）
 - 永年勤続15年表彰受賞者代表答辞
 - 資格等取得者への記念品等贈呈
（博士号9名、技術士4名）
 - (4) 記念講演
「神岡の地下での基礎科学研究」
東京大学卓越教授 梶田 隆章 様

【向殿政男会長式辞】

37回目の創立記念日おめでとうございます。長く続いた新型コロナウイルス感染症の影響も収束し、鉄道総研の活動も、ますます前向きに進めていただくことができる環境が整いつつあるのではないかと思います。一方で、社会をとりまく環境や、人々の価値観は急速に変容しています。このような新しい時代において、わたしたちが歩むべき未来像を描くことはなかなか難しいように思います。ここでは、3点ほど私たちが進むべき方向性について、意見を述べさせていただきます。

1つ目は、人々の価値観の変化、社会の変化へしっかりと対応していきましょうということです。これまで鉄道システムは、先人達の努力により、社会インフラとして、我が国のモビリティにおける重要な役割を果たしてきました。一方で、取り巻く環境が変化中、社会の維持、持続的な発展を支えていく段階に移りつつあると感じています。例えば、少子高齢化による労働者人口の減少の影響については、鉄道従事者も例外ではありません。また、物流における2024年問題といわれるような、運輸・物流業界における従事者の不足も議論になっております。さらに2050年カーボンニュートラルに向けても、取り組みを休めることはできません。そ

のような中で、鉄道に限らず公共交通機関に求められるサービスは変化し、コストや持続可能性がよりシビアに評価されるようになると予測されます。アフターコロナの時代、この価値観の変化にしっかりと向き合い、鉄道事業者や社会のニーズをしっかりと見極めて、技術革新によるソリューションを提供するのが鉄道総研の責務であると考えています。

2つ目は、一人ひとりが前例にとらわれない新しい取り組みにチャレンジしていきましょうということです。なかなか将来が見通せないなかで、失敗を恐れる気持ちから、どうしても従来と同じやり方、同じ答えの出し方をすることがよくあります。一方で、大きな技術革新の中で、従来は取り組みが難しいからと手を付けることができなかった課題についても、新しい技術の適用で解決に近づけることができるかもしれません。例えば、AI技術など、デジタル技術の飛躍的發展をはじめ、皆さん方、ひとりひとりがデジタルコア技術を道具として活用できる世の中になりました。新たな取り組みによって、鉄道に関わる諸問題をこれまでにない方法で解決できる可能性があります。デジタル技術だけでなく、これまで取り組んだことがなかったような難易度の高い基礎研究など、是非、失敗を恐れずにチャレンジしていただくことを希望します。皆さんのこのような取り組みを通じて、是非、未来の鉄道の可能性を広げていきましょう。

3つ目は、未来においても鉄道の安全をしっかりと守っていきましょうということです。私は、安全学の視点から、安全とは、技術、人間、制度の3つの要素が一体となり調和して確保すべきものだと、常々、述べさせて頂いておりますが、鉄道総研は、単に技術だけではなく、人間を対象とした心理学や人間科学、制度としての鉄道の技術基準や国際規格にも取り組む、きわめてユニークな組織であり、これらが調和することにより、鉄道の安全と発展に貢献してきたと考えております。技術と人間と組織・環境が情報を共有し、総合的にホリスティックに、実現されるような新しい安全の考え方を「協調安全」と呼びますが、従来から積み上げられた安全性・信頼性に関わる技術の中に、先程申し上げました、AI技術やDXといったこれまでにない革新的な技術を取り入れながら新しい安全技術を作り上げていくことが重要になります。いつも申し上げている私の希望でもありますが、未来の社会は、経済やモノより心、幸せ感、安心感をもっと大事にするような価値観に向かうのではないかと思います。鉄道においても、働く人は、安全が確保された環境で、健康的に、生きがい・遣り甲斐をもって働くように、乗客のお客さんは、明るく楽しく、わくわくして列車に乗って頂くというふうに、ウェルビーイングを大事にする価値観です。あくなき安全性の追求は、ウェルビーイングを実現する社会において最も重要なファクターであると考えます。私たちの技術で、未来の鉄道の安全をしっかりと守っていきましょう。

私は、常々、ピンチはチャンスである、と申し上げてきました。なかなか社会の将来イメージが見通せない中ではありますが、コロナ禍という大きなピンチを潜り抜けて、いよいよ鉄道システムの技術革新を通じて社会を変えていくという、大きなチャンスが巡ってきているように思います。今回の創立記念日を機会に、改めて、技術革新の担い手、先導役としての鉄道総研の役割を認識して頂き、新しい時代においても、鉄道総研が、社会を良い方向に進めていると、豊かな社会の実現に貢献していると評価して頂けるように、力を合わせて頑張っていきたいと思います。以上をお願いしまして、創立記念日の式辞といたします。



会長式辞

【渡辺郁夫理事長式辞】

本日、37回目の創立記念日を迎えることができました。皆さんとともに創立記念を祝いたいと思います。また、これまでの職員の皆さんの尽力、国、JR各社をはじめとする関係の皆様のご理解とご支援に改めて感謝申し上げます。

さて、創立記念日を迎えるにあたり、改めて、昭和61年の鉄道総研の設立時の「鉄道総合技術研究所設立趣意書」について確認しますと、私たちの「原点」ともいえる「設立趣意書」の結びには、以下のことが記されています。すなわち、「我が国唯一の鉄道の総合的な研究機関となる財団法人は、将来とも鉄道事業者との緊密な連携を図りながら、安全の確保、効率的な鉄道運営の維持、発展に寄与していくことはもとより、基礎から応用にわたる広範で、高度な技術の開発を行い、社会からの諸要請に的確に応え、もって我が国の学術、文化の発展に寄与していく」と記されています。

鉄道総研は、社会からの要請の変化への対応や公益法人改革などを経つつ、これまで、この設立趣意書の精神を引き継ぎ活動してきました。そして先輩や皆さんの努力により、社会から信頼される、たくましい組織となることができましたと思います。この私共の「原点」ともいえる「設立趣意書」の精神は、現在も全く色あせることなく、私たちのなすべきことを明確に示しています。今年度は「基本計画 RESEARCH2025」の4年目、あと1年余りで基本計画の目標を達成させなければなりません。さらに、次期基本計画の策定に向けて検討を進める時期でもあります。創立記念日にあたり、一人一人が、改めてこの「原点」を確認するとともに、これからのなすべきことを考え、その方向に向けて取り組んでいくことを決意する機会としていただきたいと思います。取り組みにあたっては、いつも皆さんにお願いしている「前向きに取り組む」、「チャレンジする」、「まわりとのコミュニケーションを大切にする」の3つに加え、社会からの要請に的確にこたえるために、社会の変化や技術の進化などにも視線を向けてほしいと思います。

この4年間はコロナ禍により鉄道事業は大きなダメージを受けました。そのような状況のもと職員の皆さんには、いろいろな制限がある中、いろいろな工夫をして課題に対応してきていただきました。ありがとうございました。今年に入り、JR各社の鉄道運輸収入は、コロナ禍前の9割程度まで回復してきました。ポストコロナの明るい兆しも見えつつあります。

鉄道総研においても、これからコロナ禍で様々な制限のあった各事業をまた力強く推進していくにあたり、そのための環境整備や、課題の解決に向けた取り組みをしっかりと進めていきたいと考えています。力を合わせて各事業の取り組みを加速させましょう。

鉄道総研への社会からの要請はますます高まっています。「鉄道の発展と豊かな社会の実現にさらに貢献していく」ために、力を合わせて、前向きに、明るく各事業に取り組んでいくことを強く期待し、創立記念の式辞いたします。皆さん、ともに頑張ってくださいませ。



理事長式辞

【2023年度所内表彰】

表彰件名と受賞者は別紙に記載。

【2023 年度所内表彰 表彰件名と受賞者】

□研究開発成果賞

「車両側面カメラを用いた安全確認支援装置」
合田 航、向嶋 宏記、長峯 望

「狭隘箇所における急速施工に適した盛土構造の開発」
倉上 由貴、中島 進、太田 啓介、中村 貴久

□業務成果賞

「令和4年度豪雨災害への対応」
令和4年度豪雨災害に関する支援グループ 16名
佐名川 太亮、中島 進、松丸 貴樹、佐藤 武斗、萩谷 俊吾、笠原 康平、尾崎 匠、
町田 将規、渡邊 諭、高柳 剛、飯久保 雄太、馬目 凌、深野 雄三、入 栄貴、
押元 啓介、西金 佑一郎

「西九州新幹線開業に向けた電力設備の試験・評価」
西九州新幹線電気設備諸試験グループ 15名
佐藤 宏紀、近藤 優一、常本 瑞樹、松岡 弘大、田中 博文、早坂 高雅、小西 武史、
緒方 隆充、赤木 雅陽、森田 岳、加藤 佳仁、荒井 有気、森本 大観、北川 晴之、
清水 惇

□研究開発成果褒賞

「降雨で被災した盛土での列車運行再開判断手法」
松丸 貴樹、佐藤 武斗、伊藤 壱記、尾崎 匠

「鉄道向け統合分析プラットフォームの開発」
流王 智子、河村 裕介、近藤 稔、赤木 雅陽

「防除効果および施工性に優れた蒸気除草手法の開発」
谷川 光、潮木 知良、池畑 政輝、中村 貴久

「軌道等の剛性寄与を考慮した桁の振動特性の評価法」
徳永 宗正、池田 学

「運転曲線予測を活用した運転支援システムの開発」
小川 知行、横内 俊秀、山田 昂征

「低照度環境にも対応した列車前方支障物検知手法」
影山 棕、長峯 望

□業務成果褒賞

「鉄道構造物等設計標準の再編とコンクリート標準の作成」
鉄道構造物等設計標準の再編とコンクリート標準の作成グループ 16名
渡辺 健、田所 敏弥、轟 俊太郎、中田 裕喜、中村 麻美、佐名川 太亮、岡本 大、
斉藤 雅充、池田 学、徳永 宗正、豊岡 亮洋、荒木 一徳、田畑 勝幸、松岡 弘大、
堂内 悠吾、成田 顕次

「本四備讃線鉄道単独部における電車線柱の耐震診断」

本四備讃線電車線柱の耐震診断グループ 10名

近藤 優一、高橋 勇人、常本 瑞樹、早坂 高雅、小西 亮太、森 勇樹、中田 裕喜、
伊吹 竜一、杉山 佑樹、坂井 公俊

「電車線路設備不具合の原因調査」

常本 瑞樹、高橋 勇人、高増 宣仁、尾崎 稜

「日本の鉄道技術に係る国際規格開発の推進」

平井 力、川之上 俊博、牧野 一憲、池田 浩司

「列車脱線事故の原因調査に関する技術指導」

中橋 順一、小杉 一斗、坪川 洋友、梶原 和博

□研究開発奨励賞

「圧縮波伝播の基礎検討および枝坑通過波の現象解明」

大久保 秀彦

「車上からのレール損傷検知手法の開発」

細田 充

「数理最適化による運用計画自動作成手法の構築」

加藤 怜

「主電動機軸受の損傷因子の解明に関する研究」

鈴木 大輔